

幼児の服装について (7)

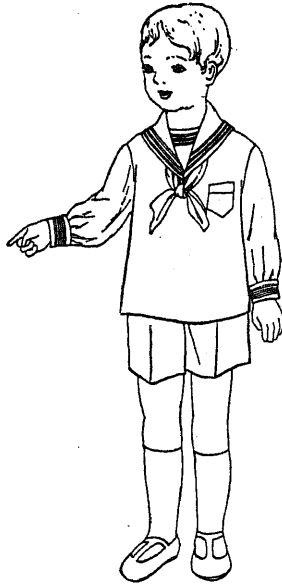
東京女子高等師範學校教授

成 田 順

六月號に引續き男兒服について記しませう。

出來上りの圖は水兵型の上衣に半ツボンをつけたものです。

五歳用假定寸法 (身長 九八種
胸圍 五一種)



① 用布の種類

夏期用としてはポプリン・ギンガム・麻・インディアン
ヘッドの類冬期用としてはサージ・メルトン・ホームス

パンの類。

色は夏期用としては白或は薄鼠又は淺黄等冬期用には紺又は黒等。

チクタイには練儒子・羽二重・クレップデシン等を用ひ色は白・黒・紺・淺黄等が多く用ひられます。

② 型紙の裁方

身頃 簡單に圖のやうに裁ちます。

1、丈 三六種、身長 $\frac{3.7}{10}$

2、ゆるみ 四種。

3、衿ぐり 前は胸圍の線迄下げる。

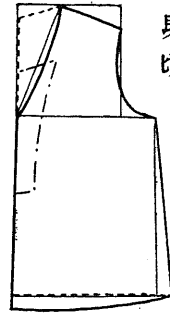
4、肩幅 胸圍 4の線迄、故に普通の肩幅より少し廣く
なります。

5、脇の線 裾で一・五種程廣くします。

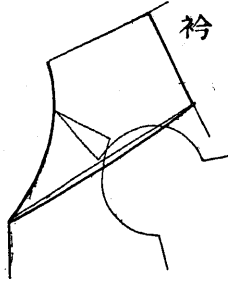
6、ポケット位置 凡そ胸圍の線。

口は六纏 深さは七纏。

身頃



衿



衿

1、肩の重り 肩幅の $\frac{1}{2}$

2、丈・幅共に胸圍の $\frac{1}{4}$

袖

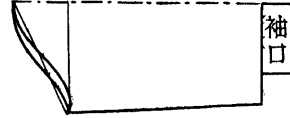
1、丈 二八纏。

2、山の高さ 袖ぐりの $\frac{1}{5}$ 又は $\frac{1}{6}$

冬物即ち地厚のものは山を高くする。

袖

輪



3、一・一・五纏。

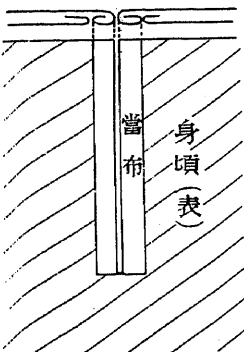
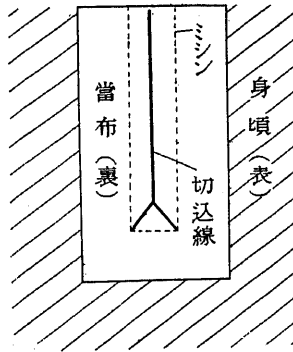
カフス

丈 八纏 幅 五纏。

③ 布の裁方

裾に折代四纏 其他は一纏つゝ取ります。

④ 仕立方



七六

1、胸明の始末

頭が入るだけに胸圍の線より下へ七纏程あけて斜布で縁を取るか又は次のやうにする。

當布 幅五纏

丈凡そ一三纏

當布の周圍を

〇・五纏折つて

ミシンをかけて

おく。次に圖(1)のやうに身頃の表胸明の位置に、當布の表の中央を合せ、周圍○・五糎はなれてミシンをかける。次にミシンの角に向つて切込を入れる。圖(2)のやうに縫目を割つて裏からこてをあて、當布を裏へ返し、割つた筋へ落しミシンをかける。

2、胸にボケット附

ボケットの形を作り位置を定めてつけます。

3、肩合せ

4、衿

衿の表布に飾紐をのせゆるまぬやうにミシンをかけます。飾紐の太さにより間隔を考へ三本並行して手ぎはよくつけるこぎが大切であります。

三本の中一本は裏布と共にミシンをかけておく洗濯をしても裏布が出ないでよいと思ひます。

(衿ミ袖口ミにつける飾紐は冬はジャバラでもよいが夏の物には細いテープ或はキャラコを細く折つて用ひるのが洗濯にも都合がよい。

表衿の色によつて飾紐は白のみに限らず黄・赤・青・

緑・茶等を用ひる。しかし何さいつても白が最も上品である)。

裏の衿ミ稍々張り加減に表衿に合せ三方を縫ひ、表に返してから飾紐の一本のミシンをかけます。

5、衿附

衿がゆるまないやうに身頃ミ斜布ミで挟んでつけ、

斜布の他の端を折つてまつりつけます。

6、脇縫 袋縫

7、裾の始末

8、袖及び袖附

袖下を袋縫ミし袖口を縮めておきます。次にカフスに飾紐をつけて輪ミなし表側につけて裏側にまつりつけます。

袖附の注意は前にも述べたやうに山のあたりは袖をゆるめに袖下の方は袖がゆるまないやうに注意してつけます。

9、胸當

胸當に飾紐をつけ三方を縫ひて表に返します。左身

頃の方は奥をくけつけておき右身頃の方はスナップ
ぎめに致します。

10、仕上げ

11、鉤ホック及びスナップ附

12、ネクタイ附

練縹子又はクレップデシンの斜布（幅凡そ一〇厘丈
凡そ六〇厘）の端を細く三つ巻にし、結んで二つに切
り、一方はこぢつけてしまひ、一方はスナップぎめ
に致します。

以上は裏のつかない單について記したのでありますが
裏附の場合は次のやうに致します。

裏地には普通黒又は鼠の毛縹子・スレーキ或は新毛縹
子を用ひます。

裏布の裁方

身頃 丈は型紙通り其他は表と同様。

袖 丈は表より一厘長くし其他は表と同様に裁ちま
す。

仕立方

1、胸明の始末

表裏の布の表を中にして胸明の寸法凡そ七厘程をな
るべく淺く縫つて切込を入れ表に返します。

2、ポケット附

3、肩合せ

表裏各々前後の肩を合せ割りこてをあて縫代をこぢ
ておきます。

4、衿及び衿附

表衿に飾紐をつけ三方を縫つて表に返し、表身頃に
のみ衿をつけ裏身頃は折つてまつりつけます。

5、脇縫

表裏各々前後の脇を合せ割りこてをあて縫代をこぢ
ておきます。

6、袖及び袖付

表裏各々袖下を縫ひ割りこてをあて裏をゆるめに縫
代をこぢ合せ、袖口の方を縮めておきます。次に單
の時と同様に袖口布に飾紐をつけ地質によつては袖
口に心布を入れ袖の表の方に口布をつけ裏の方はま

つりつけておきます。

次に身頃の袖ぐりを表裏合せて駢をなし一枚見なしして袖の表の方をつけ裏の方は丈を稍々ゆるめにして袖付の縫目にまつりつけておきます。

7、裾の始末

表を丈の標通りに折返し千鳥掛にてきめておき裏は

二種程短く折り奥まつりにしておきます。

8、胸當

單の時と同様にします。

9、仕上げ

10、鉤ホック及びスナップ附

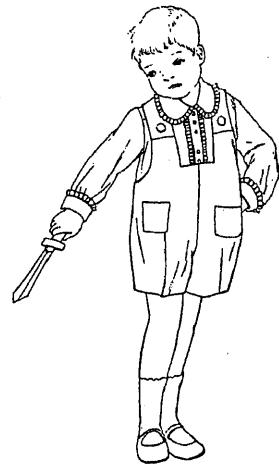
12、チクタイ附

前と同様に致します。

半ズボンには前號にくわしく記しておきましたからこゝでは省略致しておきます。

次に示す圖はブラウスまつりズボンです。二歳位から六歳位迄の男兒の遊び着でつりズボンは丁度女兒のつりスカートに相當するものであります。

三歳用假定寸法
身長 八六種
胸圍 四八種



ブラウスについては前號に記しましたからこゝではつりズボ

ンについてのみ述べませう。

① 用布の種類

アルバカ・セル・メルトン等薄地の毛織物。

② 型紙の裁方

1、丈 四七種(身長の $\frac{5.5}{10}$)

2、ゆるみ 八種。

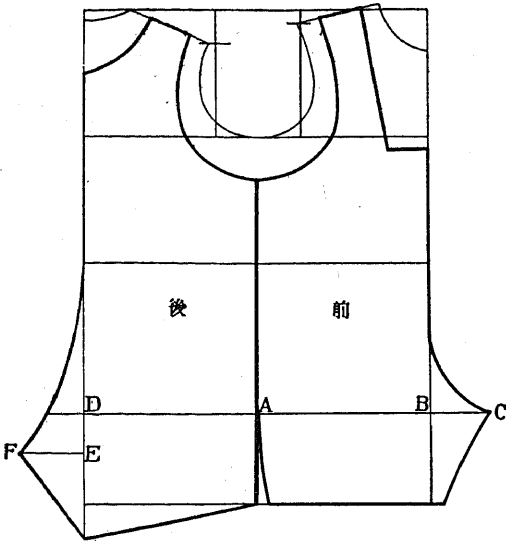
3、袖ぐり・襟ぐり 肩幅の $\frac{1}{2}$ を中央にて取り出來

上り圖により袖ぐり襟ぐりを定めます。

4、DC線 裾より身長の $\frac{1}{10}$

5、BCはABの $\frac{1}{3}$ 半ズボンの時と同様に前跨上

- 5、前跨下の線を引きます。
- 6、前脇の線 裾で一纏つめます。
- 7、DEは凡そ四纏。
- 8、EFはBCより一・五纏多く。
- 9、後跨上 ウエストラインよりF点に向つて圖のやうに線を引きます。



- 10、後跨下及び裾 DEの延長線上に前跨下の長さに等しく後跨下の長さを取ります。
- 次に裾の線を圖のやうに引きます。
- このつりツボンはウエストミ半ツボンの型ミを四纏程重ねて作つてもよろしいのです。

③ 布の裁方

裾に二纏前の上に持出し見返しミして四纏他は一纏乃至一・五纏の縫代を入れて裁ちます。

④ 仕立方

1、前上の始末

前の上を〇・五纏折り更に一・八纏の持出しミして折つてミシンをかけます。

2、前の中心・前跨上の始末

前號半ツボンの所で説明したやうに前跨上に一〇纏程の明を作り其の上下は左右を合せ割りミシンをかけておきます。次に明の所に當布をあて、ミシンをかけます。

3、後上の始末

後の上には見返し布をつけます。

4、後の中心・後跨上縫

後の跨上は充分のばしておいて左右合せて縫ひ割り
ミシンをかけます。

5、臀當

臀當の取方・附方は前と同じです。

6、脇縫

前後の脇を合せて縫ひ前の分に折つてミシンをかけ
ます。

7、跨下縫

前後の跨下を合せて縫ひ割つておきます。

8、裾の始末

裾を折返してミシンをかけるか千鳥掛又はまつつて
おきます。

9、衿ぐり・袖ぐりの始末

衿ぐり、袖ぐりには斜布で見返しをつけます。

10、仕上げ

11、釦附・穴かぶり及びスナップ附

圖のやうに釦をつけて穴かぶりをなし、肩布がすら
ぬやうにスナップでブラウスにこめておきます。

倉橋主幹今夏の講習

七月二十二日—二十七日 文 部 省 講 習 東京

七月二十八日—二十九日 昭和保姆養成所講習 東京

八月二日—四 日 朝鮮保育協會講習 京城

その後朝鮮巡講

八月二十日—二十一日 滋賀縣主催教育講習 大津

八月二十三日 中央融和協會講習 東京

八月二十四日—二十五日 恩賜財團愛育會講習 東京

九月上旬 大阪市保育講習 大阪